

海夫通信 第2号

2009.1.31

特定非営利活動(NPO)法人 霞ヶ浦アカデミー

事務所 茨城県行方市浜 370 番地 1

ホームページ

<http://www.k-academy.sakura.ne.jp>

【海夫】

潮の香りをほのかに残すここ霞ヶ浦
にもかつては多くの海の民がいた。

海に寄り添い、潮の流れとともに暮
らしていた人たちに思いを寄せて、今
生きる霞ヶ浦の海夫たらんとす。

CONTENTS

- ・連続講座の開催
- ・ホームページについて
- ・いばらき水環境ネットワーク
- ・生き物アカデミー
- ・霞ヶ浦絵画コンクール
- ・コラム
- ・これからの予定



霞ヶ浦絵画コンクール表彰式

連続講座開始

今年二月十五日に第四回霞ヶ浦定期連続講座を行った。この講座は第三日曜日の午後一時半より毎月行っており、今回で四回目である。

第三日曜日の午前中は、子供を対象とした「生き物アカデミー」を継続してきた。そこでは子供達が魚を捕るなどし、霞ヶ浦と触れ合ってきた。これからは同じ曜日で新たに、お昼を挟んで一般向けの講座を連続的に開催するようになる。霞ヶ浦についての見聞が広がる講座だと自負しているので、ぜひ参加してほしいと思う。

昨年十一月十六日の第一回講座は、調査船ガイアの船長をされていた大久保祐司先生にお話を頂いて頂いた。「目で見る霞ヶ浦の現代史」という題の通り、たくさん写真のスライドに映し出し、その写真の時代背景、エピソードなど私たちが知らない霞ヶ浦を知る事が出来た。霞ヶ浦の航空写真から植生や水質などが垣間見えるなど驚きの連続であった。懐かしい写真を見て当時の様子を参加した方が話が出るなど、盛り上がりも見え、第一回目として相応しい講座になったと思う。

同講座では霞ヶ浦水資源開発史と題して、当アカデミーの木村陽一副理事長にも講演をして頂いた。第二回(十二月二十一日)と第三回(一月十八日)と続けてお話をいただき、霞ヶ浦の水資源開発について、その背景から核心に迫る部分まで聴くことが出来た。質疑の時間を設けると、たくさんの方のやり取りがあり、参加した方には満足して頂いたのではと感じている。第四回となる講座は、野原小右二さんに「江戸時代における霞ヶ浦への移住」という題でお話をいただき、当時富山県から茨城まで越して来た理由になるほどと聞いた。

次回三月十五日(日)午後一時半より水の科学館 多目的ホールで行う。題目は「飢えと米」。野口淳夫副理事長にお話していただく。

また、午前中には子供向けに生き物アカデミーの講座を開催しているのでもそちらもご参加願いたい。

私たち霞ヶ浦アカデミーは、「連続講座」や「生き物アカデミー」を定期的に実施している。皆に霞ヶ浦をより知ってもらい、より好きになってもらえればと願う。

生き物アカデミー会員募集!

霞ヶ浦で遊んでみませんか?
魚を捕ったり、水を測ったり、
たくさんの体験ができます!



場所:霞ヶ浦ふれあいランド水の科学館
お問い合わせは生き物アカデミー事務局まで。

メール:kaseco@v5.dion.ne.jp

ホームページについて

一月七日ホームページが仮完成しました。今後の予定やニュースをはじめ、会員の考えを綴ったブログも始める予定です。また、徐々に資料も増やしていきます。是非ご利用ください。ホームページは田中健太(茨城高専三年)が担当して更新していきます。

なお現在のトピックは次のようになっています。

- ・はじめに／理事長挨拶

このHPについて、霞ヶ浦アカデミー理事長からの挨拶を載せる予定です。

- ・定款

- ・海夫通信

会報のバックナンバーを掲載します。

- ・ニュース

- ・定期講座

アカデミーで行っている定期講座の案内や活動

予定、記録を載せる予定です。

- ・ブログ

会員が自由に編集できるブログです。

- ・連絡先募集

- ・資料

霞ヶ浦アカデミーに関連する資料です。

霞ヶ浦アカデミーホームページのアドレスは次の通りです。QRコードも載

せます。ご利用ください。

<http://kukademy.sakura.ne.jp>



「いばらき水環境ネットワーク」について

副理事長 原田 泰

「いばらき水環境ネットワーク」は、茨城県がいくつかの市民団体に設立を提案している「市民団体等」の連携組織の名前です。霞ヶ浦アカデミーでは、県の招請を受けて平成二十年十二月十七日の設立準備会議に木村副理事長が出席し、その後の理事会で内容を検討しました。

(意見書の提出)

十二月二十一日の理事会では、水環境に関わる市民団体が緩やかに連携して情報交換や統一活動を行い、活動を活性化

し社会の問題意識を高める、という趣旨はアカデミーの理念と一致するので、この構想の基本的な趣旨は賛同できるが、

設立準備会議での説明や配布された資料から民主的な運営が疑われることが問題になりました。行政の水資源開発政策を批判している団体には案内が送られず、行政に協力的な団体ばかりが役員に推薦されているようでした。

そこでアカデミーは県に対して、設立総会の延期、開発批判グループを交えた検討会議の開催などを要望する意見書を提出するとともに、アカデミーで把握している九十八団体に、この問題を知らせ、自主検討会の開催を呼びかけました。

(市民検討会)

平成二十二年一月十七日(土)午後二時から四時まで八団体、十二名が参加して市民検討会が開かれ、県に対して要望書を出して民主的な対応を要望することを決めました。

(県との話し合い)

一月二十六日に、霞ヶ浦アカデミーの荒井理事長など五名が茨城県庁に行き、水環境室中川室長に市民検討会の要望書を渡して一時間半ほど意見交換を行いました。

設立準備は、県と昨年十二月の会議出席者だけで進めるのではなく、幅広く参加を募って公明に行ってほしいという要望に対して、中川室長は、今後の方向は十二月会議の出席者に諮って決めると、全く受け入れませんでした。ただ、12月12日に予定している第10回市民検討会に出席して説明をしていただけることにはなりました。設立準備は県が進めるもので、市民団体と協議する性質のものではないというのが中川室長の基本姿勢だったようです。

(本当の市民のネットワークの実現のために)

「いばらき水環境ネットワーク」という名称と「市民団体等の緩やかな連携」ということばから、この構想が市民の主体的な活動であるように聞こえるのですが、現在のところ県は、県が運営する「県民」参加イベントに対する参加者確保の手段と考えています。

しかし、私は、今は本来の市民団体等のネットワークに変えていける可能性がまだ残っていると思います。その方がより効果的によい施策を実現できて、県にとってもプラスになると思います。

二月二十一日(土)の第二回「いばらき水環境ネットワーク」

に関する市民検討会の詳細はまだ決まっていますが、ぜひたくさんの人に参加してほしいと願っています。

二月五日

「水環境フォーラム」パネリスト参加

茨城県環境科学センター主催のフォーラム「パートナーシップで進める水環境保全」にパネリストとして参加してほしいとの要請が荒井一美理事長にありました。理事会で審議し参加して問う団体の考えなどを発表することを決定し、参加しました。

フォーラムは午後一時より土浦市民会館大ホールで行われた。まず基調講演『市民・企業・行政のパートナーシップ』恵小百合さん(江戸川大学社会学部教授)があり、その後パネルディスカッション「パートナーシップで進める水環境保全」となった。

【新規会員】敬称略

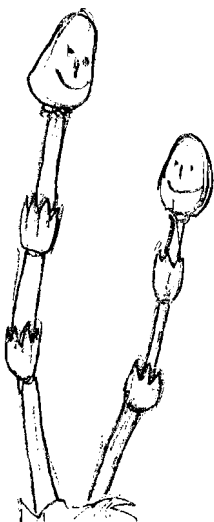
個人会員 高野 整一郎

十一月十六日 講師 廣瀬 誠

生き物アカデミー『生き方を探る』

昆虫採集をするということで、小美玉市の「ふれあいの里小川」に向かった。幸いにも雨が止んだため、外に出て虫を捕りつつ先生の様々なエピソードを聞けると楽しみだった。

しかし、こここのところ学校行事などと重なり、また私たちの企画、宣伝が悪いためか参加者が少なかった。これはもったいない話だ。そこで急遽、昆虫採集ではなく、どのようなことを考えて生きていけばよいのか。先生はどんなことを考えているのか。様々なお話を頂き、質問にも答えていただいた。私はちょうど進路を決めようとしている最中であり、考えさせられることが多かった。いつもの虫屋さんとしての先生ではなく、大先輩の話を聞いたこの機会は貴重であったに違いない。



霞ヶ浦絵画コンクール

「アカデミー賞」に九人

昨年十月二十六日(日)に行方市の霞ヶ浦ふれあいランド

の水の科学館多目的ホールで行われた霞ヶ浦絵画コンクールの優秀作品表彰式において今回より後援団体となった本アカデミーから「ZPO」法人霞ヶ浦アカデミー賞」が荒井理事長より九人の小中学生に贈られました。(一面に写真)

この絵画コンクールは平成七年から行われており今回で十四回目となりますが、霞ヶ浦流域の小中学生が夏休みに霞ヶ浦を訪れる中で、湖の現状に触れ絵画作品を通して環境保全意識の啓発につなげたいとの目的で同施設が主催し、各小中学校が協力のもとで行方市や関係行政機関、新聞社等が後援して行われてきています。毎年二千点に近い力作が出展され、全作品を館内で一ヶ月余にわたって展示しているユニークな展示会です。

今回の受賞者は行方市長賞などを合わせて九十九名ですが、このうち「ZPO」法人霞ヶ浦アカデミー賞」は次の九人です。○小松崎咲帆(かすみがうら市立牛渡小一年) ○宮本拓海(行方市立玉造小二年) ○畠山大樹(行方市立小高小三年) ○栗山広夢(阿見町立阿見第一小四年) ○小貫茜

(行方市立太田小五年) ○齋藤優樹(かすみがうら市立牛渡小六年) ○山口歩美(行方市立浅生第一中一年) ○田中麻友(行方市立玉造中二年) ○坂野綾香(かすみがうら市立千代田中三年)

コラム「わたしのみち」

菊地 章雄

小学四年生のとき、なんとなく生き物アカデミーに参加した。私は、生き物が大好きであった。しかし学校や習い事など一方的に教えられることに違和感があった時期であったため、自分から進んで参加しようとは思っていなかった。はつきりは覚えていないが親が私を丸め込んで参加することになった気がする。しかし実際に参加すると、毎月の活動が楽しくなってきた。知識だけの勉強ではない、今までと違った「考える」という学習スタイルがそのころの私にフィットしたのだと思う。

また研究者として先生方の姿に尊敬し、憧れていた。将来、私も研究者になりたいとずっと夢見ていた。先輩たちも

目標だった。私よりも活発に意見を述べ、そして私には到底考えも付かないようなことを発表した。きつと先輩たちも、アカデミーで教わる先生方のように研究者になるのだろうと、その背中を追っていた。

小学生のときに道ができた。先輩たちのような姿を経由し、先生方みたいな研究者になる筋道だ。そして私は先生や先輩が残した足跡を、下を見ながら忠実に歩いていった。一歩も踏み外さぬようにその背中を追っていた。しかし、何度か立ち止まり考えてしまう。例えば先輩のあとを追いつ専攻している物質工学。そして将来の研究者像までも、本当にそれでいいのだろうか。

私は、まだそれらについて解決の糸口すら見つからないが、ひとつ解ったことがある。まだ想像のつかない将来のことで悩み、テスト勉強に集中できない状態にいることが、私のモチベーションにとって最悪であったため無理矢理導いただけかもしれない。

悩んで最低限の勉強ができていなかったのも事実であった。そこで、とりあえず導き出した結論はとても単純なものである。自分は自分であり、生き方も自分独自のものです。

ある。先輩の足跡を見ながら下向きで歩くのではなく、自分の前を見て歩けばいい。私が何を学ぶか。私がどんな仕事に就くか。それらは、そのときが来れば解るだろうし、今のようにぐるぐると悩んでいないで直感で決めるのもいいだろう。私は、自身についてわからないことがあってもいいという当然のことを得たのである。そして自分の将来が、まだ発売されていない、本の次巻のように思えるようにもなった。

私をここまで導いてくれたアカデミーの存在に感謝している。ただし、たまに不要なほど思い悩んだりもするが……。

「ミラム」何を想って動くか

田中 健太

アカデミーに入ったばかりの私は単に生き物好きの少年でしか無かった。勿論、動機の項目に霞ヶ浦を守ろうとか、環境問題を解決しようなんて偉大層な物は全く無い。そこにあったのは漠然とした生き物に対する興味だけだ。もし私が傍から見る大人の立場ならゲームに没頭する子供より好感が持てたけど、本質はそれと何ら変わ

りなかった。

総合学習なる教科では環境問題を選択し続けたが、それは単に動物という単語が出てくるといふ以上の理由は持たない。そこから何かがおかしくなり始めた。

鯨を殺すのはかわいそう。猿達の住処が無くなってしまふ。――自然への、見た事も無い相手への同情を胸の内に秘めながら、口では声高に、かつ本に書いてあった倫理をそのままに私は謳い上げたのだ。生態系のバランスが云々二酸化炭素が云々などと。まるで、よのなかのためになることをしているんだという一見すると正義感溢れる顔で。

積み重なった齟齬^{そご}はやがて大きな音をたてて崩れ、社会で一般に通用する後者の理由があくまでも人間本位でしか無い事に愕然とした。いや、愕然としたのはそんな事では無い。前者も後者も理由としては立派だ。問題は、それらが別物である事を認識していなかった事だった。

他人の考えを鵜呑みにしつつ騙し騙し自分の考えとして語り続け、それを除いてしまえば本当に自分で考えた物が何一つも残らない。つまり、人に良いと言われる事だけを行い、自分は何も考えていなかった。なんとなく本能だけで行動し、今の私から見ればおよそ人とは思え

ない生活だった。

その空虚を埋めるため、私は一度遠のいたアカデミーに復帰した。

アカデミーは決して自然大好きな人養成教室では無い。自分の考えを持てば他人の考えの同意する部分だけをとり込むことが出来るし、流されてしまふ事も無い筈だ。

皆が自分の意見を自由に述べ、他人の考えに触れてそれらを比較しながら思考出来る。これからのアカデミーが、自分にとってそんな場所であつたらと願う。



三月の活動

三月十五日(日)午前十時から十二時
生き物アカデミー『今の霞ヶ浦を考える』
場所・交流館(水の科学館内)
講師・濱田篤信さん(霞ヶ浦アカデミー)
参加費・無料

前半、霞ヶ浦にどんな魚がいるか調べます。後半、発表会の準備もかねて交流館内でちよつぷりお勉強をします。

三月十五日(日)午後一時半から三時
第五回 霞ヶ浦定期連続講座

『飢えと米』

場所・水の科学館 多目的ホール
講師・野口淳夫さん(霞ヶ浦アカデミー)
資料代・六〇〇円
(水の科学館にも入場できます)
アカデミー会員の方は無料になります。

四月・五月の活動

四月十九日(日)午前十時から十二時
生き物アカデミー『今の霞ヶ浦を考える』
場所・交流館(水の科学館内)
講師・田中健太さん(茨城高専三年)
参加費・無料

四月十九日(日)午後一時半から三時
第六回 霞ヶ浦定期連続講座

『アジアから見た環境教育』

場所・水の科学館 多目的ホール
講師・原田泰さん(霞ヶ浦アカデミー)
資料代・六〇〇円
(水の科学館にも入場できます)

五月三十一日(日)
霞ヶ浦アカデミー総会
場所・水の科学館 多目的ホール
生き物アカデミーの発表や、基調講演を予定しています。時間、内容など詳細は次号でお知らせします。

海夫メールリングリスト御利用ください!

・メールリングリストとは登録した方が同時に電子メールを受け取る方式です。
・登録するとメールの受信・送信ができます
・霞ヶ浦アカデミーの情報をお知らせするだけではなく、意見交換の場になります。
・御希望の方は、以下のホームページアドレスよりメールリングリスト登録希望と連絡ください。

<http://k-academy.sakurane.jp>

水環境ネットワークを検討するメールリングリストもnetも同時に活用ください。

【会員募集】

会員を随時募集しています!

入会金 1,000円
年会費 3,000円
賛助会員 10,000円(一口)

【入会方法】

氏名、住所、連絡先、会員の種類を御記入のうえ下記の宛先にお送りください。

〒311-3505 茨城県行方市浜 370-1
NPO 法人霞ヶ浦アカデミー 荒井一美

海夫通信第二号(2009.02.15 発行)

【編集】野口淳夫、菊地章雄、田中健太

『海夫通信』のバックナンバーはホームページよりごらん頂けます。御不明な点があれば霞ヶ浦アカデミー事務局まで。

00/50-744640
00/50-744640
00/50-744640